

午後1時10分再開

○議長（浅尾静二君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、11番大庭きみ子議員の質問を許可します。11番大庭きみ子議員。

（11番大庭きみ子君登壇）

○11番（大庭きみ子君） 皆様、こんにちは。11番大庭きみ子でございます。本日は、お忙しい中に議会傍聴においでいただきまして、ありがとうございます。

心配されました台風10号も大きな被害は少なく、ほっとしたところでございます。失礼しました。12号でした。ちょっと緊張しております。しかし、東北地方や北海道地方では、台風10号により甚大な被害が出ております。とうとい犠牲となられました方々へ御冥福をお祈りいたしますとともに、心からお見舞いを申し上げます。

さて、リオオリンピックが感動と興奮の余韻を残しながら、先月閉幕いたしました。リオオリンピックでの日本選手団のアスリートたちの活躍は、記憶にも新しいところでありますが、試合の後で語ったアスリートたちの言葉には感動させられるものがありました。

吉田沙保里選手の史上空前のオリンピック金メダル4連覇へのプレッシャーは、想像を絶するものであったろうと思われます。そして、運命の決勝では、新進気鋭なアメリカの選手に敗れてしまいました。吉田選手が試合直後のインタビューで、「こんなことになってしまい申しわけない。ごめんなさい。」と、涙ながらに繰り返して謝っていたのです。しかし、メールやツイッターでは、「吉田選手、感動と勇気をありがとう」「胸を張って日本へ帰っておいで」という温かい言葉で溢れていたそうです。

これから、女子レスリング界発展のために、近い将来、吉田選手が必ず必要になるときが来ることでしょう。吉田選手がみずからアスリートから指導者への道を選んだとき、苦難に満ちたときがあるかもしれませんが、そのときこそリオで敗れて銀メダルとなっていたものが何事にもかえがたい糧になることでしょう。これからは、女子レスリング界での活躍にとどまらず、日本のスポーツ振興、発展のために大きく寄与してくれることを願ってやみません。

次は、リオパラリンピックが現地時間の9月7日に開幕であります。さて、どんなドラマが待ち受けているのでしょうか。今後の日本選手団の活躍に大いに期待するところであります。

それでは、通告に従い、322号道路改良事業、水を生かした地方創生、子どもの貧困について一般質問を続行いたします。執行部におかれましては、明快な回答、よろしくお願いいたします。

（11番大庭きみ子君降壇）

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） それでは、まず最初に、通告書に従いまして、西鉄・甘鉄甘木駅周辺整備について質問をしてみたいです。

まずは、国道322号線の甘木駅前交差点から東田交差点間の道路改良がなされることになり、西鉄・甘鉄甘木駅周辺のクランク解消をするためにショートカットされることになっております。これにつきましては、長年、甘木町から要望も出ており、懸案事項でもあっただけに、今回、改良工事の計画が進み始め、大変喜ばしいことだと思っております。

昨日も、2人の議員が質問されておりました、重複するところもありますが、確認も含めて現在の進捗状況についてお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（武内伸一君） 昨日からの一般質問とも重複する箇所があるかと思いますが、言い方をちょっと変えまして、都市建設部のほうでは、事業に関しては、一定の市のライフライン的な業務を担っております。上下水道しかり、道路関係、これらは恒常的な維持管理業務をしなければならない。その中で、とりわけ都市建設部のほうで重要な施策ということで考えておるのが、議員おっしゃいます、この322号の道路整備、加えまして、それに伴う面整備ということを重要な施策ということで肝に銘じておるところなんです、国道322号の道路整備計画に合わせまして、面整備事業の整備を進めていくことになるわけなんです、先ほどの全員協議会でも報告申し上げましたように、8月10日にUR独立行政法人都市再生機構、こちらと朝倉市甘木駅周辺まちづくりに関する協定書を調印したところでございます。

これについては、もう報告申し上げたところでございますけど、今後におきましては、具体的な整備内容を検討を行いながら、翌年度には、面整備の実施計画を行いたいという考えでおります。以上です。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 今のUR都市機構とのまちづくりの協定書もしておるところでございますが、この道路改良に伴い、面整備が大変重要になってくると思われま。これからのまちづくり、交通機関、ちょうど中心になります甘木駅を中心とした将来のまちづくりを、市としてはどのように考えておられるのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（武内伸一君） 議員言われます、公共機関を中心としたまちづくりということだと思えます。日本の公共機関といいますと、とりわけ時間に正確無比だということで、もう世界中に知られておるところでございますけど、この時間に正確な公共機関として交通渋滞がない鉄道の存在は非常に大きなポイントとなってくると思っております。

駅周辺整備に関係します地権者といたしまして、甘木鉄道株式会社並びに西日本鉄道株式会社がございます。それぞれの利用者数については、現状のままですれば、将来的な課題も考えられると思っております。そのようなことを鑑みまして、まちづくりによります駅周辺の居住人口の増加施策によって、鉄道の利用者をふやし、あわせまして、若者が定着するような一定の都市化した環境を想像することによりまして、駅周辺の居住の意欲

は高まるものと思っております。

さらに、加えまして、居住がふえれば、当然そこで生活が営まれるということになりますので、これらをターゲットとした商業系の投資も期待できるものということで考えております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 若者が定着する、定住人口をふやした、そういう環境づくりを、まちづくりをしていきたいというお話でもございました。本当に定住人口をふやすためにはやっぱり暮らしやすさ、住みやすさ、便利さも必要になってくるかと思えます。で、将来、今、八丁峠のトンネルも工事に入っておりますして開通してきますし、そうすれば、北九州市と久留米市、今、大刀洗町の東田まで322号のバイパスが開通しておりますので、ここの流通、利便性がさらによくなるのではないかと思われております。

そういう中で、交通量もふえてくるということで、ただのこの駅前が通過点にならないために、経済活性化につながる取り組みが必要ではないかと思われます。このチャンスを生かしたまちづくりを、私は具体的に考えていただきたいと思っております。この朝倉市の魅力を生かしたまちづくりをしていかなければ、ただの通りすがりの通過点になってしまうのではないかというふうな懸念もございますので、このあたり、もう少し具体的にお尋ねをいたします。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（武内伸一君） 都市建設部では、非常に難しい課題ということで考えておるところでございますが、駅周辺といった立地の要件を最大限に生かしていかなければならないということで考えております。そして、例えば、誘導したいとするいろんな数々のものがありますが、種別ごとにゾーニング配置をしながら、道路計画とあわせて、例えば、土地の入れかえとか、誘致計画に基づいて用途地域の見直しを行うとか、土地利用計画の先々を見据えて行っていくことが非常に肝要なことなのかなと思っております。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 大変その事務処理的な事前の事業がまた必要になってくるかと思いますが、今、甘木の中では新プラン21、市街地活性化事業も進んでおりまして、これとの相乗効果も期待されると思うのですが、どのようにこのあたりはお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 新プラン21で、今、まちはとてもきれいになっております。これからも工事が進むに従いまして、環境は整いつつございます。

そういった環境につきましては、今の工事中のそれぞれの路線から工事業者が工事完了して終わった後、まさにそれからが甘木町の再生のスタートだというふうに考えております。

今回の駅周辺とセットで考えていきますと、相乗効果的に居住なり、地元の居住者を対象とした地元の小さい産業から大きな産業まで、それぞれの形で活性化が期待できるというふうに期待しているところでございます。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 本当に今、甘木のまちも中心市街地活性化が進んでおりまして、大きく変わってきております。ぜひとも相乗効果というの生まれてくるようなプランニングをお願いしたいと思っています。

また、新庁舎もピーポット周辺に建設予定でありますし、ここは徒歩圏内にもなりまして、さらに交流人口、また定住人口もふえるかと思いますが、かなりの人口増が見込めるところでもございます。

そういう相乗効果の中で、この西鉄・甘鉄の甘木駅は西の玄関口になると思っております。一体感を持った開発、新庁舎建設予定地とその一体感というのが、今後大事になってくると思いますが、こういう交流人口や定住人口を増加させていくためには、本当に大切な、私は政策の一つではなかろうかと思っております。そのあたりも含めまして、どのようにお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（武内伸一君） 都市建設部のほうでは、まず322号の、これに伴います駅周辺整備、この箇所を朝倉市の拠点として捉えております。そして、2町1市で合併しましたけど、旧杷木町の杷木支所エリア、バス停エリアと言いかえてもよろしいんですが、それと朝倉、旧朝倉町、これは朝倉の支所周辺、これを拠点として考えております。まずは、この322号に伴います面整備、あわせまして、将来的にはそちらの地域拠点として、第2の拠点として整備をして、要するに、コンパクト的なもので行っていきたいということで考えております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） ここは高速インターチェンジも近くにありますので、杷木エリア、朝倉エリアとも交通の便もよくなってくるものだと思っております。そういう便利のよさも生かしながら、朝倉市の発展を考えていかなければいけないと思っておりますし、今、コンパクトシティとしてやっていきたいということでございます。

で、これは西鉄電車站を、図面上でよりますと、やはりちょっと移動をしなければいけないような図面になっておりますが、この相手の、西鉄側の課題と申しましょうか、それはどんなものがあるんでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 西鉄の方とは現在もお話を続けさせていただいております。詳細の課題につきましては、現在協議中でございますので、この場で一つ一つ述べることは差し控えさせていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 相手方があることですので、やっぱりこれは大切な交渉になっていくかと思っております。そのあたりの意見なり、また出てくるかと思えますし、また、住んでます住民の方の御意見、御要望などもまた出てくるかと思えます。そのあたりもしっかりとこう聞いていただきながら、これからの新しいまちづくりに、ぜひ全力を尽くしていただきたいと思っております。

今後のスケジュール、今、計画をしますというお話でしたが、これからのスケジュールはどのように進んでいくのか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 本年度、そういう方向性についての話をさせていただいております。

まずは、本年度、都市計画道路の見直しということで、住民説明会のほうをいたしております。本年度中に都市計画道路の、いわゆるショートカットをするという都市計画道路の形に見直しを行います。都市計画法に基づきまして手順を踏んでいる状況でございます。来年度以降、具体的な設計ができればというふうに考えておるところでございます。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 来年以降、具体的な計画に入っていくということでございますが、先のことでございますが、大体、大まか、事業の完了としてどれぐらいかかるような事業になってますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 都市計画課長。

○都市計画課長（日野浩幸君） 完成年度ということになりますと、相手方の国道事業の絡みがございますので、そのスケジュールに合わせながらということになりますので、具体的には申し上げにくいと思えます。よろしく願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 大変、今から交渉事も始まっていきますでしょうし、いろいろ困難なことも多いかとは思いますが、ぜひとも速やかに進めていただきたいと思っております。

また、これは今回の補正予算の中で出ておりますが、甘木鉄道のレールバスが博多駅まで直接乗り入れできるかどうかの調査を行うということで、これはまだ未定であるということで十分理解はしておりますが、もしこれが実現できれば、本当に、さらに何か利用客がふえて、利便性もよくなり、もっともっと地域の活性化に、発展につながっていくのではないかと思っておりますので、その結果に大いに期待をしておきたいと思っております。また、その調査結果については、御報告を、またお願いをしたいと思っております。

そういうふうに、いろんな可能性を秘めている、今から、この駅周辺を含めまして、博

多駅、また久留米、また八丁峠のトンネルが開通することによって北九州にも近くなる。また久留米まで、久留米ももちろんのことですが、通勤圏が広がるということで、さらにここから、私は大きなまちづくりが進められていくものだと大いに期待をいたしております。

それで、ちょっとまだわからないかとは思いますが、この財政について少しお尋ねをしたいと思います。この国道322号の道路改良は国・県の事業ということの説明をお聞きいたしておりましたが、それに伴う区画整理事業に係る経費、これがどのように市の財政にかかわってくるのか、そのあたりをお尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 総務財政課長。

○総務財政課長（郷原康志君） この事業と財政とのかかわりのことになりますけれども、この国道322号線、道路整備に伴います面整備事業、こちらにつきましては、まだ今からの話でございます、事業の形、事業の規模、財源、事業年度などがまだ決まってない段階でございますので、財政の見通しの中にはまだ算入してない状況でございます。これからの議論になるところでございます。有利な国庫補助事業や起債、こういったものを最大限活用して進めていく必要があると考えております。以上です。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 現段階では、そういう答弁になるかとは思っておりますが、やはり地元の、朝倉市の負担も出てくるわけでありまして、これが10年間の見通しの、先日、富田議員も見通しのことで心配をしてありましたが、その中の経費には入っていないということで、これが新たに経費を計上してこなければならぬということも出てくるかと思っております。この、今後の財政の見通しですね、このことについても、議会のほうにもまたわかりましたら報告をお願いしたいと思っておりますし、有利な国庫補助など、そういう研究も進めていただき、有意義な方法で建設が進みますことをお願いをしたいと思っております。

次の質問に移らせていただきたいと思っております。次の質問は、朝倉らしい地方創生についてということで質問をしたいと思っております。

昨日、10番議員の質問の中で、「朝倉市の売りは何ですか」という問いに対して、「歴史と文化です」という答弁があっておりました。確かに、歴史と文化は大事だと思っております。しかし、歴史と文化はどこも力を入れておりますし、根本的なことだと思っておりますが、朝倉市にはもう一つ、水という恵まれた資源があるのではないかと考えております。朝倉市の第1次総合計画の目指す将来像は、「水を育み街を潤す健康文化都市の創造」であり、これは、市役所の駐車場の入り口にも大きな立て看板が立っておりまして、皆様もよく御存じのとおりであります。

朝倉市の宝の一つは、この豊かな水資源だと思っております。朝倉市は、水源地朝倉として、福岡都市圏を初めとした北部九州に対して水源地域としての役割を果たしていると考え

えています。このこと自体を、私は大変誇りに思っておりますが、宝である水源が、私たちが住んでいるまちづくりに十分生かされているのか疑問があります。

確かに、朝倉市水道や工業用水として地域に役立っていますが、稲作が終わると水路の水はなくなり、まちから水が姿を消しています。普段の私たちの生活が利便性・快適性を求めるのに反比例して、まちから水が見えにくくなったと感じています。

朝倉市では、先ほど質問いたしました国道322号線の改良工事とあわせた甘木駅周辺のまちづくり計画や市役所の新庁舎建設計画という大きなプロジェクトがあります。ここに、朝倉市の宝である水を生かしたまちづくりという政策とコンセプトを組み込んでいくべきだと考えますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（武内伸一君） 議員おっしゃりますように、朝倉市の総合計画の将来像として、「水を育み街を潤す健康文化都市の創造」というキャッチフレーズのもとに、そういったものがございますけど、議員おっしゃられましたように、本庁舎の入り口にもそのようなことが掲げられております。そういった意味でも、朝倉市は単なる水源地だけではなく、水を大切にしているんだということを発信していくべきなのかなということで考えております。

駅周辺の事業計画に関して、これをどういうふうに生かしていくのかということですが。先ほども申しましたように、現在、URの支援を得ながら進めていこうとしておるところでございます。今後、各方面からの有効な情報をいただきながら、計画策定を進めていくことになると思っております。

私たちもそういうことは重々承知をしておりますし、貴重な御意見として賜っておきたいということで思っております。そういう形で受けとめて、周辺水利権の課題とか、立地する環境等を調査し、どのようなことであれば可能なのか、財源等も検討・比較しながら、駅周辺の充実した整備を進めてまいりたいと考えておるところでございます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 朝倉市も、朝倉地方創生の総合戦略はできてるんですが、その中で、朝倉らしい地方創生の取り組みとして、「地域の個性で輝く朝倉」という項目がありまして、今回、新規事業で水政策アドバイザーを配置されまして、水に対する総合的な政策推進のためにアドバイザーを配置ということで予算計上されておりました。これは、新規事業でありますので、28年度から新たにまた力を入れていくことではなかろうかと大いに期待をしているところでございます。

やはり、こういうプロの方も入っていただいておりますし、この朝倉市はやはり水と緑、私は、これは大きなキャッチフレーズというか、本当にこう誇れる、PRできるものだと思います。だから、ぜひそれを表にわかるような形で、やはり政策の中に打ち出していくべきではないかなと思っております。

午前中の一般質問の中で、実藤議員も言われておりましたが、ダムが2つありまして、3つ目が今できておりますが、そういう中で、この水資源としての、水源地としてのこの朝倉をアピールできないか、それを活用した市民への発信、いろいろロードレースとか、その湖面を利用したボートレースなど、何かいろんなこうアピールする方法がもっとあるのではないかなという提案もあっておりましたが、私もそのように思っております。また、水の文化村もございますし、そこの総合的な活用なども含めながら、この朝倉市の水というのを、私はもう少し大事にさせていただきたいなと考えているところでございます。

先日、これは神奈川県の開成町、これはちっちゃな町なんですけど、そこの元町長さんにお会いしてお話を聞いたんですが、この開成町は6.5キロ平方メートルで、もう神奈川県の中では小さな町なんですけど、合併して30年、ずっと人口がふえ続けております。現在では3.7倍、もともとちっちゃな町ではあったんですが、3.7倍にふえて5年間で人口増加率は4.0%と神奈川県の中では最も高い人口増加率となっているんですね。で、神奈川県には横浜市など大都会もありまして、その周辺は人口が増加しているのはわかるのですが、この開成町は都心から離れた小さな、本当に小さな町なんですけど、その開成町の周りは人口が減少しているのに、この開成町だけは人口がふえています。

で、その町長さんが言われるには、この水田の田園風景を大事にしたい、残していきたいということで、あぜ道にこうアジサイを植えられまして、古民家や歴史的建造物の再生も行いながら、古い歴史をよみがえらせ、今では年間6万から7万人の見学者が訪れて、田園とアジサイの花が咲き誇るアジサイの里として、その魅力を全国にアピールしていますというお話をしてありました。

大変小さい町なので自転車で回れる、だから、「自転車で回れる町」というのがまたキャッチフレーズで、うつくしい田園風景の中で、自然環境の中で、そういう、安心・安全な子育て支援にも、教育にも力を入れてありましたけれど、町政を運営されておまして、ずっと一貫してふえ続けていますというお話があっておりました。

そういう自然環境のよさの中で、富士フィルムの研究所を誘致されているわけですが、やはりこう環境とか、そういう、よそにない、水も大事な資源だと思うんですが、一点突破をしていくことも大事であると、よそにないよさをこうアピールをしていくということで、この、小さな町なんだけれど、今、人口が毎年ふえていますという報告をされておまして、こういうふうには、何かこう暮らし、何か魅力を感じるようなまちづくりも必要なんではないかなと思っておりました。

で、朝倉市は特に「住みよさランキング2016」の中で、九州ブロックの中で、何と住みよさランキング9位という結果が出ておまして、これも昨日からいろいろこの議論があっておりました。昨年までは11位であったのに、2つもランクが上がって9位ということは、大変喜ばしい結果だと思っております。

なぜこれが住みよさランキングの9位なのかと言えば、まず1番目に、保育所の待機児



童がない、2番目に、住宅の床面積が広い、3番目に、病院の病床数が多いということでランキングが高いところ選ばれているという、きのうの答弁の中でお話があったわけですが、本当に、保育所の定員、朝倉市にとっては保育所の定員割れというのは問題なんです、逆に、待機児童がゼロというのは、すばらしい、打って出られる、ピンチをチャンスに変えられるのではないかなと思いましたが、空き家も多いということで、住宅もたくさんあるということもありますし、食べ物も水も空気もおいしいということで、すごい、アピールできるというか、こう魅力がいっぱいあって、それを上手に発信していけば、若い人たちももっと朝倉市に住んでくれるのではないかなと思うんですが、きのう、議会の一般質問、聞きながら、そういう、ちょっとヒントをいただきました。そのあたりはどのように、市長、考えられますでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（浅尾静二君） 市長。

○市長（森田俊介君） ちょっと通告とは違う内容であるようでもありますけれども、せっかくだので答弁させていただきたいというふうに思います。

いわゆる人口減少に歯どめをかけるために、朝倉らしいものをつくりなさいということ、要約するのはそういうことだろうと思います。全くそのとおりです。よくよそのまちがこういうことをして成功したからということ、そのまま朝倉市に当ててもだめです。

で、もう一つあるのは、これは企業あたりもそうですけれども、要するに、中小の企業、中小の都市が大都市あるいは大企業と同じことをしても、これは絶対負けず。きのうの中島議員の一般質問の中で、いわゆる同じ、今から先、日本という国自体が人口減少していくのに、そこで、私は人口獲得ゲームを各自治体がやりよるという捉え方、非常にこれはむなしなものもありますけれども、しかし、それをやらなければ、この朝倉という地域が将来、まあ、続かんとは言いませんけれども、非常に大変なことになるという認識の中で、あえてそれをやる。その中には、一つにはやはり自然環境というものもあると思います。

で、水という話が今出ましたんで、水についてお話ししますと、朝倉地域に限らず、これは、私が知っているのは朝倉地域だけですけれども、ほかの地域もそうだったんだろうと思いますけれども、いわゆる、昔は地下水あるいは湧水というものが、この地域も比較的豊富にございました。甘木で言うならば龍泉池の池、それから甘木温泉の横のプール、あれも甘木川の伏流の水で自然に湧いてた。そのほかにも、金川地区、いろんなところに湧水もございました。あるいは、地下水等にも今よりもっと浅いところに地下水が流れていたという記憶をしています。そういうものがだんだん、地下水は水位は低下しておりますし、湧水は枯渇してきたということ。

で、それを捉えてどうするかというと、なかなかこの根本的な問題については、朝倉市単独で解決するのは難しいということが言えると思います。やはり、私はよく、これは後で質問もあるようなんですけれども、出てきますけれども、いわゆるダム群連携事業の検討の場の中でその話をさせていただいております。いわゆる朝倉市にとってダム群連携はメリット

がないです。ましてや、今まで朝倉市というのは、ダムを要して、福岡地区あるいは県南の水源地としての役割をしっかりと果たしてきておると。もちろん、今ある2つのダムについては、地元の農業用水とかいろんな形で使用してますんでメリットはあるわけです。しかし、ダム群連携については、朝倉市にとって今のところですね、今のところ何らメリットがないじゃないかと。それであるとするならば、少なくとも、ダム群連携をすることによって、もちろん、その水質等の問題、いろんな細かい問題いっぱいあります。しかし、少しでも昔の自然環境に近づけるような努力をするのが私どもの務めだろうと思いますし、このダム群連携事業というのは一つのいい、そのきっかけにしようと思えばできる問題だという形で捉えています。

ですから、今言われますように、地域の人口減少等については、もちろん、自然環境、そういう形で自然環境、朝倉市しかないものかどうかは別として、都市では味わえないもの、そしていいなと思ってもらうもの、これをどう、朝倉市が自分たちで見つけて自分たちでそれを育てていくかということにかかっているだろうと思います。

例えば、よく言われます、子育てのために子どもたちの医療費をただにしろとか、そういった問題は、もちろん、私もやりますけれども、どこでもやるんです、大都市の金持っところところは。これはもう競争にしかならん。しかし、それだけでいいかということ、それだけじゃいかん、そのほかにもいっぱいあります。生活環境、いろんな問題がある。整えなきゃいかん。しかし、それだけじゃ、その根底にはやはり朝倉市の本当にいいところ、これは100人の方が100人いいと認めなくても僕はいいと思っています。100人のうち10人の方がいいなと思ってもらえば、そこに来てもらえばそれでいいわけですから。

例えば、私、きょう知ってるところで、これも田舎な、ちっちゃな村です。うちの村は徹底的にお世話をしますと。要するに、移住とか、いろんな人來たら、徹底的にいろいろお世話をしますと。それは、行政だけじゃなくて地域の住民もそうなんです。そのことによって移住する人がふえた村もあります。逆に言うと、余り世話されると嫌いな方もいらっしゃるんです。そういった方はうちには来んでいいと。はっきり割り切った形の中で、ターゲットといいますか、そういったものを、移住者というものを何とか来ていただくという努力をされています。

そういうことを含めて、朝倉市も、今言われますように、都市空間も整備も、先ほど言われましたように、やっていかなきゃならんでしょう。やっていかなきゃならんと思います。さっきもう一つ、まあ、せつかく時間いただきましたんでついでに言わせていただきますと、甘木のいわゆる今度の322号線の改良によってクランク状態なくしてやっていくということになると、あそこはですね、甘木にはもう一つ、今、中央バス停という交通の中心点があります。それと、今度は西側に鉄道を中心とした、こう2つあっても私はいいと思っています。そしてあわせて、これは甘木町とか旧甘木地域だけじゃなくて、例えば、朝倉からバスで、例えば、今、うちでいろんなバス、公営バスしてますんで、それをそこ

に乗り入れて、そこからまた福岡に行くとか、そういったことも可能になってくる。

で、非常に私もこの事業については、一つの朝倉という地域の将来の活性化あるいは便利な地域に人が、ほんなら朝倉に住もうかと言って住んでいただけるような一つの核になるというふうに思ってますんで、今からの事業ですので、私が市長してる間、完結するかどうかわかりませんが、とにかくしっかり取り組みをさせていただいて、頑張っていく。そして、人口減少とか自然環境については、先ほど申し上げましたとおりの考え方で、今後、取り組みをさせていただきたいというふうに思ってます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 済みません。どうも関連のことまで答えていただきまして、ありがとうございます。済みません。市長にもっと早く意見をお聞きすればよかったんですが、今言われましたように、本当にこう朝倉市にはもう宝がたくさんあるなというのを感じておりますので、ぜひともこれをアピールしていける政策を強力に進めていただきたいと思っております。

さっきお話も出ましたが、龍泉池の湧水状況について、今、本町に龍泉池という、昔、湧水が湧いてた池があるんですが、そこにことし、何かかなり13日間ほどずっと湧水が、梅雨の時期ですが、本当にこんこんと湧き出ておりました。で、市役所のほうからも毎日調査に来ていただきまして測定をしていただいております。本当にこういう、私たち地元に住む者として、昔からの住民の憩いの場でもあったこの龍泉池が何とか復活できないものかと、復元できないものかと思っているんですが、その調査結果についてお尋ねをいたします。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（武内伸一君） まず、現状ということから報告申し上げたいと思います。

龍泉池につきましては、明治14年の記録が記されました龍泉碑というものが現地に建てられております。かつては、三十数町の農地を潤したということとあわせて雨乞いをしていたと、そういった旨が記述されております。住民にとって親しみのある、そして大切にされてきた湧水池であったということは重々感じておるところでございます。

その後、湧水が減少したことが一つの原因になったのかなと思いますけど、池を埋めて植樹をして公園に整備をされております。埋め立てにつきましては、地元のほうによって昭和56年に行われたということで伺っております。

その後、何年か定かではございませんけど、地元負担金をいただいて、市の事業で公園整備がなされたというのが、これまでの経過のようでございます。

それで、議員、先ほどおっしゃいました、湧出量のことに関してですが、6月から7月の梅雨期になりますと、池の地下水位、ここでは地下水位という表現でさせていただきますが、地下水位が高くなって、冬場は低下していると、総体的なことです。昨年度は湧出はなかったという情報を得てます。聞いたところによりますと、年に1回、1日もしくは

2日ぐらい出ているという情報を得てます。

昨年から、都市建設部のほうで水位調査を毎月行っておるところですが、湧水状態は直近で7月の2日、6月の23日、ことしですね、地域の方から水が出ているよという情報を受けました。早速現地調査を行っております。湧水状態は7月の2日まで、延べ10日間続いたということを確認しております。

6月30日に水の量を測定してみました。環境課のほうから流量計を持ってきまして、スクリーがこうついてるんですけど、断面積掛け、その流速を掛けるという算出の仕方です。数量を測定しました。1分当たりに換算しますと450リッター、約、わかりやすく言えば、風呂2杯分程度ということです、1分間にですね。そういった水量が確認できました。水温がちょうど18度ということでした。

450リッターの水を参考的に、1日の、24時間の水量に換算してみますと700トンということになります。普通、計算上、1人の1日の消費量が250リッター前後から300リッターと設計上では言われてますけど、それに換算しますと2,800人分の水量が出ているということです。湧水時の最大値、これは6月23日に現在の池の地表面から最大18センチまで上昇をしていましたので、さらに23日の時点ですれば、もう少し水量があったのかなということで確認をしておるところでございます。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 調査をいただきまして、ありがとうございました。

今、報告いただきましたが、かなりの、1日700トンという量が出たということで、本当にすごい水量だったんだなと思っております。私も見に行きまして、ザザザッと流れる音と湧き出る水の勢いが、何かすごくイオンがいっぱい出てて、何かすがすがしいなという思いがしたんですが、本当にこういう、まあ、まれなことだと思っております。今までにないことで、ことし湧水が出たということは、本当に何かこう新しい、そういう兆しじゃないかというふうに思ったんですが、ぜひとも水源地の朝倉市としてこの湧水を大事にしていきながら、今はもう公園化されておりますが、何とかこれをシンボルにできないのかなと、朝倉市の癒しの場として、個性で輝くまちづくりの中に、こういう湧水が湧き出るまちなんですよという、そういう市民のオアシスとなるような、心が潤うような、そういうまちづくりができないのだろうかというふうに思っております。ぜひ、そういうふうをお願いをしたいと思っておりますので、そのあたり、今後、どのようにお考えなのか、ちょっとお尋ねをいたします。

○議長（浅尾静二君） 都市建設部長。

○都市建設部長（武内伸一君） 水のことにしましては、人が生きていく上で欠かすことのできないものと思っておりますし、古来から人々の生活と密接な関係を持ち、産業や文化を育んできたということは、もう至極当たり前のことだろうと思っております。

ただ、都市化の進展や産業構造の変化、これらの影響により、地下水位の低下や水質の

悪化が問題となっております。ここでは、水量の関係だろうと思いますけど、へりくだった言い方を申しますならば、人間が快適性や利便性を迫及してきたがためのツケが今に出ているということで、私は思っております。

先般、龍泉池のほうに行ってきました。水資源政策課の課長も一緒やったんですけど、隣に水路がございます。この水路の上流はどうなってるんだろうということで、ずうっと追っかけて、ちょっと暑かったんですけど、汗びっしょりになってですね、したら、旧国道386を横断して、さらに、どういったらいいんでしょう、甘木公園の下の通り、あそこの水路をずうっと通ってるんですね。途中、いろんな複雑に分水が、2つとか3つあったりとか、先人の知恵でいろいろ、そういった水路を構築してきたんでしょうけど、強いて言えば、持丸辺までこう入っていると。それ以上、ちょっと行けませんでしたが、私、そこで何を思ったかといいますと、全部、コンクリート構造物、3面水路の真っすぐな構造物ばかりでした。

かつては、昔は、おおよその水路の形態は変わらないだろうと思います。そういったことで、素掘りがあったり、空石積みの水路であったり、そういったものが地下浸透して、涵養の一つになっていたんだろうと思います。

で、三十余町の農地を潤してたという記述がございますけど、こんだけの広い涵養面積を持ってるんだとすれば、地図で等高線してみれば涵養面積、概略的な想定はされるということであるんですけど、相当広い涵養面積を持っているんだなということを感じました。

まずは一番大事なのは、ハード的なものもあるんでしょうけど、市民のやっぱり、そういった考え方、そこが一番大事なのかなと思っております。何もそこらを否定するものじゃございませんし、やっぱり一番、市民が水は大事なんだ、朝倉市はこういった立場にあるんだというのを認識していただく、それが一番の必要なことなのかなと思っております。以上でございます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 時間もなくなってきましたので、本当に水の大切さ、こんなに恵まれている水源地であって、何か当たり前に使って、当たり前にあるのがもう当たり前になってるんですが、本当にこう水というのは大事なんだなあと改めて考えさせられております。

どうぞ、これからもぜひこの朝倉市の宝のこの水源地、そして水を育む、そして住民がやっぱり、市民がそれで潤えるような、目に見えるような形で、そういうまちづくりをぜひ今後とも検討していただきたいなと思っております。また、龍泉池のほうも引き続き、また研究をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ちょっと時間が少なくなりましたが、次、子どもの貧困問題について質問したいと思っております。

これは、みなし寡婦控除についてということで、ことしの3月の議会でも一般質問をし

ておりましたので、その後、調査して検討するという答弁をいただいております。そのことについて質問をしたいと思っております。

もう貧困問題も皆様御存じのとおりですが、今、子どもの貧困率は16.3%と言われて、6人に1人が貧困状態に陥っていると言われております。特に、ひとり親所帯では、子どもの貧困率が54%と、2人に1人が厳しい貧困の状態であるということが考えられます。

このひとり親世帯の中でも、離婚や死別、また非婚であるということで、税の控除や保育料の減免などが違っております。最貧困世帯と言われる非婚のひとり親所帯をみなし寡婦として、税金や保育料などの控除対象にさせていただきたいという質問を前回はおしえておりました。

このみなし寡婦というのは、控除というのは、この前も質問したことなんですけれど、結婚歴があれば、税法上の優遇措置もありますし、寡婦控除が受けられるんですが、全く非婚であれば、年収180万円のシングルマザーと3歳の子どもの場合でも年間23万円からの控除の差、保育料も含めまして差が生じているということで、貧困家庭の中でもさらに格差が生まれている現状があります。

ことしの6月20日の西日本新聞におきましても、この問題は大きく取り上げられておりました。28年度からは、近隣の自治体も前向きに取り組みが始められており、県内では、このみなし寡婦控除の適用を実施しているのは14市町となっています。このあたり、この朝倉市はその後の一般質問の後、どのように調査されて、その結果がどのようになったのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） せんだっての一般質問を受けまして、朝倉市における非婚ひとり親世帯の実態、それと寡婦控除のみなし適用について、対象事業について、議員の御質問でしたのが、保育料についての差がどれくらいあるかということと、あと税金についてどれくらいということでございました。保育料のほかに、寡婦控除のみなし適用がどんなものがあるかということも必要かと思ひまして、その可能事業がどんなものがあるか、それと歳入歳出も含めて市の負担がどれくらいふえるのか、影響がどのくらいあるかということも、今、調査を行ってるところでございまして、該当世帯の把握というのは、児童扶養手当の受給者から、ある一定は把握できるのですが、戸籍から調査していかないとはいけないので、確実な数字というのは今のところ、ちょっとまだつかめておりません。

それと、対象となる事業、みなし適用が対象となる事業がどんなものがあるかというのを庁内の各課に照会いたしまして、子育て支援以外で、例えば障害者支援とか、高齢者の支援あるいは健康支援とか、住宅支援ですね、そういうさまざまな分野で実施可能な対象事業の洗い出しを今行っているところでございます。

あと、今、県内14市町村が新聞報道では実施しているということと、議員おっしゃいましたが、県のほうでもみなし適用の実施状況のアンケート調査を各自治体に行っております。

す。それがまだ公表されておられませんので、ほぼ同じぐらいの数字じゃないかとは思っておりますが、そういう状況です。

それと、市としても、当然、税法、寡婦控除というのが所得税とか、地方税法で規定されてる措置ですので、それを法律に基づくものを市町村でみなし適用ということですので、取り扱いは慎重にさせていただきたいと思っておりますので、みなし適用を行う場合、市として、考え方としては、子どもの貧困防止、先ほどから子どもの貧困防止対策あるいはひとり親支援の施策の視点から、保育料と子育て支援の事業に対象を絞って検討していきたいというふうに考えているところでございます。

あと、実施に当たっては、まだ予算の措置等、また規則、要綱の改正とか、あるいはシステム改修の必要とかも出てくるかと思っております。また、具体的な事務手順をどうするのかというところもまだ検討が必要な段階というふうに思っております。全庁的にできるものがないかというのを、今、洗い出しをしているところでございます。以上です。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） 今、前向きに洗い出しをしているという御答弁いただきまして、ありがとうございます。本当、これはごく少ない、少数の方ではないかなと思っておりますし、市のほうがそれほど税制の影響も限定的で、それほど運営面に支障を来すようなことではないと思っておりますので、あと、内部のそういう調整ですね、規約なり、そういう各課の連携も必要になってまいりましょうし、手間暇はかかるかと思っておりますが、ぜひともそういう貧困、最貧困家庭の子どもたちへの対処と申しますか、支援を朝倉市も前向きに、今、前向きに考えていただいておりますので、ぜひ来年度あたりから実施できるように、さらに進めていただきたいと思いますと思っております。もう一回、何かありましたらお願いいたします。

○議長（浅尾静二君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（宮地ミドリ君） 先ほど答弁したように、もうちょっと検討する時間をいただきたいと思いますので、前向きには考えているところでございます。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員。

○11番（大庭きみ子君） ぜひとも実施していただけることを期待しておりますので、よろしく願いをいたします。

本当に、かけがえのない子どもたち、一人一人にもやっぱり光が当たるような、そして、子育てしやすい、住みやすいまちづくりとなるように、ぜひとも努力をしていただきたいと思いますと思っております。

以上で、一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（浅尾静二君） 11番大庭きみ子議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後2時8分休憩